



TITLE:

小口落禁止問題

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 小口落禁止問題. 經濟論叢 1918, 7(1): 106-122

ISSUE DATE:

1918-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127401>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第七卷 第一號

大正七年七月一日發行

論說

剩餘價格ノ成立……………法學博士 河上 肇

相續稅批評ノ重點(一)……………法學博士 神戸 正雄

扶養義務力救貧籍力……………法學博士 財部 靜治

さんぢかりずむ概論(一)……………法學士 河田 嗣郎

黃宗義ノ政治經濟思想(一)……………法學士 小島 祐馬

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(一)……………法學博士 田島 錦治

分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヲ請フ(一)……………文學士 高田 保馬

時事問題

小口落禁止問題……………法學博士 戸田 海市

軍需工業動員法ニ就テ……………法學士 櫛田 民藏

雜錄

英吉利ノ豫算……………法學士 河田 嗣郎

南露ニ於ケル獨逸住民(一)……………文學士 長 壽吉

かあらいるノ「過去及ビ現在」……………文學士 石田 憲次

戰費調達問題(一)……………法學士 小島 昌太郎

時事問題

小口落禁止問題

戸田 海 市

一 問題ノ真相

小口落トハ取引所ノ定期市場ニ於テ同一仲買人ノ同種目的物ニ付テ行フタ賣ト買トニ付キ、其日付ケノ古キモノヨリ順次ニ轉賣買戻トシテ處分シ、從ツテ其賣買ニ付キ仲買人ヨリ取引所ニ提供セル證據金ヲモ之ニ返戻スルコトヲ云フノテアルガ、政府ハ之ヲ有害ト認メテ其廢止ニ付キ營業者ト交渉シツツアル。併シ仲買人カ他人ノ委託ニ由ラス、全ク自己ノ計算ニ於ケル賣買ノミヲ行フタ場合ニ、其仲買人ノ意思ニ由テ日付ケノ古キ賣ト買トヨリ順次ニ消シ合フカ如キハ勿論自由テナクテハナラス。又小口落ヲ禁スルト云フモ、利益落又ハ指定落ノ如キ他ノ處分方法ハ全ク自由ニ放任スヘシト云フ旨意テモナイ。故ニ今回ノ問題ハ之ヲ小口落禁止ト稱スルハ其真相ニ適セス。之ヲ轉賣買戻制限問題ト稱スルヲ適當トスル。

此制限ヲ強ク主張スル論者ハ仲買人ノ委託賣買ヲ取扱フ權限ヲ一體ニ狹クシ、從來特種ノ問屋營

業ト認メラレテ居タモノヲ仲立人ニ類スル地位ニ下ラシメ、其當然ノ結果トシテ轉賣買戻ノ處分ヲ行フ權限ヲモ狹メ、例ヘハ或仲買人カ甲ノ委託ニ由テ行フターノ定期賣買ハ、同種目的物ニ付キ乙ノ委託ニ由テ行フター反對ノ賣買、又ハ仲買人自身ノ計算ニ係ハル反對ノ賣買ト對當セシメテ轉賣買戻ノ處分ヲ爲スコトヲ許ルサス、必ラス甲自身カ其後同一仲買人ニ委託シテ行ハシメタ反對賣買ト之ヲ對當セシメテ轉賣買戻ノ處分ヲ爲シ得ルコトスヘシト云フノテアル。論者ノ主張ハ仲買人ノ權限ヲ一體ニ狹クスルコトニ由リ、仲買人カ委託者ヨリ受領セシ證據金ヲ其儘取引所ニ提供セシメ、其委託者ノ意思ニ由ラサレハ之ヲ仲買人ノ手ニ取戻スコトヲ得サラシメントスルノテアル。

論者ノ主張スルカ如キ轉賣買戻ノ制限ハ、仲買營業ノ權利義務ニ關スル現行取引所法ヲ改ムルコトヲアツテ立法手續ヲ必要トスル。取引所法ニ於テハ賣買取引ノ方法ニ關スル規定ヲ勅令ニ委任シテアルガ、論者ノ主張スルカ如キ制限ハ賣買方法ニ關スルモノテナク、仲買人ノ權限ニ關スルモノテアルカラ立法事項ニ屬スル。此事カ既ニ立法事項ニ屬スル上ハ、取引所カ其定款又ハ營業細則ニ由リ自由ニ之ヲ仲買人ニ命シ得サルハ勿論テアル。只タ仲買人全體ノ自發的規約ニ由リ此ノ如キ權限ノ制限ヲ實行スルコトスレハ、立法手續ヲ俟タスシテ問題ノ解決カ付クト云フ說モアルガ、此ノ如キ自發的ノ規約カ果シテ法律上有效ナリヤハ疑問テアル。何トナレハ仲買人ノ權

限ヲ此ノ如ク制限スルコトカ公益ヲ害セス、却ツテ之ヲ増進スルコトカ明白テアレハ其規約モ有
效トナルトシテモ、實際仲買人ノ權限ヲ此ノ如ク制限スルコトハ利益ノミヲ生シテ何等ノ弊害ナ
シト斷言シ難イカラテアル。

取引所市場ニ於テハ仲買人ヲ以テ取引ノ主體トシ、之ニ全責任ヲ負ハシムルノ必要ナルハ言ヲ待
タヌガ、若シ仲買人ノ委託執行ニ關スル權限ヲ上述ノ如ク限定スルノ主義ヲ貫カントスレハ、仲
買人ハ委託賣買ニ付テ必ラス他ノ相手方ヲ求メテ取引ヲ成立セシムルコトヲ必要トシ、同一仲買
人カ目的物、數量及直段ニ付キ互ニ相適合スル多數ノ賣ト買トノ委託ヲ有スルモ、之ヲ市場ニ於
テ組合ハセ、又ハ委託賣買ニ對シテ仲買人自身ノ反對ノ賣買ヲ組合ハセテ取引ヲ成立セシムルコ
トヲ禁止セネハナラス。然ルニ一ノ仲買人カ互ニ相適合スル賣ト買トノ委託ヲ有シ、從ツテ世間
ニ需用ト供給トノ互ニ適合スルモノアルコト明カナルニ係ハラス、其ノ一ツ一ツノ賣又ハ買ニ付
キ市場ニ於テ他ノ相手方ヲ見出し得サル場合ニハ、委託賣買ヲ總テ不成立トナラシムルコトハ、
世間ノ需用供給ヲ迅速ニ適合セシムルカ爲メニ認メラレタル取引所ヤ仲買營業ノ存在ヲ無意義ナ
ラシムルモノテアル。又仲買人カ自己ノ計算ニ於テ賣買ヲ爲スノ權利ヲ有スル上ハ、自己ノ賣買
ト委託者ノ賣買トヲ組合ハセテ取引ヲ成立セシムルコトヲ絕對ニ禁止スルコトモ當ヲ得ナイ。特
ニ仲買人ハ委託賣買ニ付キ市場ニ相手方ヲ求ムルトキハ、市場取引ノ狹隘ナル爲メ著シク相場ノ

變動ヲ生シテ委託者ノ不利トナル場合、又ハ委託賣買ノ大部分ニ付テハ市場ニ相手方アルモ、其一部分ニ付テ需供ノ適合シナイ場合ニハ仲買人カ委託者ノ便宜ヲ圖ル爲メニ自己ノ賣買ヲ立テテ之ト組合ハセ又ハ之ヲ補足シ、以テ穩當ノ相場ヲ得セシメ又ハ委託ノ全部ヲ成立セシムルノ必要ヲ見ルコトカ少ナクナイ。外國ノ例ヲ見テモ公撰仲買人ニ自己賣買ノ權限ヲ認メサル制度ヲ行フトキハ、汎キ權限ヲ行フ所ノ私設仲買人カ發生シテ市場ニ優勢トナルコトカ通例デアリ、又取引所ノ監督ニ嚴重ナル獨逸ノ如キモ遂ニ其公撰仲買人ニ對シテ、委託者ノ賣買ヲ執行スルニ必要ナル範圍ニ於テ自己ノ計算ヲ以テスル賣買ヲ行フノ權限ヲ認ムルニ至ツタノテアル（京都法學會雜誌第十一卷第十號定期取引所ニ於ケル「バイカイ」ノ性質參照）

此ノ如ク仲買人ノ權限ヲ限定スルコトハ必シモ有利ト云ヒ難キノミナラス、取引界ノ風紀ノ自治的ニ嚴肅ナルヲ以テ有名ナル英國ニ於テスラ完全ニ此制限ヲ履行スルハ難シトスル所テアル。是ヲ以テ仲買人ノ權限問題ニハ全ク觸レス、單ニ賣買取引方法ノ一部タル轉賣買戻及證據金ノ取扱方ニ制限ヲ加ヘ、同一仲買人カ多數ノ委託者ノ賣ト買トヲ互ニ組合ハセ、又ハ之ヲ自己ノ計算ニ於ケル賣買ト組合ハセテ取引ヲ成立セシムルコトハ之ヲ認メ、從ツテ今日實行セラレツツアル「バイカイ」ノ方法モ之ヲ認ムルガ、凡テ計算主體ノ異ナレル賣ト買トノ間ニ轉賣買戻ノ處分ヲ行フコトヲ認メス、之ヲ賣買而建トシテ市場ニ存續セシメ、之ニ對スル證據金ヲモ取引所ニ提供シ

置カシムヘシト云フ論カ、寧ロ今日ノ小口落禁止問題ノ真相ニ近イヤウテアル。最モ此場合ニ於テモ轉賣買戻ヲ此ノ如ク制限スルコトハ結局仲買人ノ法定權限ノ變更トナラサルヤ、又ハ此ノ如キ賣買兩建ノ強制ハ取引所法ノ定ムル定期取引ノ觀念ニ反スルモノニアラスヤトノ法律問題モ起ラナイトハ云ヘナイガ、假リニ此制限ハ勅令ノ規定シ得ル取引方法ノ變更ニ過キストシテ茲ニハ之ヲ問題外ニ舍クコトトシ、何ノ爲メニ此ノ如ク兩建ヲ強制スヘキヤト云フニ、取引ノ真相ニ通セサル者ハ或ハ之ニ由リ委託者ノ仲買人ニ提供シタル證據金ヲ取引所ニ保管セシメテ其權利ヲ安固ニシ得ルカ如ク考ヘル。併シ取引所ニ對シテハ仲買人カ取引ノ主體トシテ全責任ヲ有スル者テアリ、若シ仲買人ニシテ違約ヲ爲セハ其ノ取引所ニ提供セシ證據金ノ全部ト身元保證金トニ對シテ取引所カ優先權ヲ行ヒ、委託者ハ直接ニ其證據金ニ對シテ權利ヲ主張スルヲ得ナイ。故ニ兩建ノ強制ハ委託者ニ對シテ直接ニ取引所ノ保護ヲ及ホスヲ得ナイ。此強制ハ寧ロ仲買人カ委託賣買ニ付テ轉賣買戻ヲ行フコトニ由リ、委託者ヨリ受領セシ證據金ヲ取引所ニ提供セス、若クハ之ヲ取戻シテ之ヲ自己ノ投機取引ヲ行フノ資金トスルコトヲ防カントスルノテアル。仲買人カ委託者ノ證據金ヲ利用スルカ爲メニ轉賣買戻ヲ行フニ方ツテハ、獨リ多數委託者ノ賣ト買トノ間ニ之ヲ行フノミナラス、委託ノ賣買ニ對シテ仲買人自身ノ反對ノ賣買ヲ立テ、之カ爲メ受託者トシテ誠實ニ委託ヲ執行スヘキ仲買人カ委託者ト反對ノ地位ニ立テ之ト勝敗ヲ爭フカ如キ背信ノ弊ヲ生シ易

イノテアル。

二 無效有害ノ小策

仲買人カ委託者ヨリ證據金ヲ預カルコトト、取引所ニ對シテ證據金ヲ預入ルルコトトハ法律上及經濟上全ク別種ノ關係ニ由ルモノテアル。仲買人カ取引所ニ證據金ヲ預入ルルコトナキ外國ノ取引所制度ノ下ニ於テモ、仲買人カ委託者ヨリ委託ヲ受クルニ方ツテハ充分ノ證據金ヲ提供セシムルコトヲ常トスル。又我國ニ於テハ仲買人カ必ラス取引所ニ證據金ヲ提供スルコトヲ要スルカ、併シ一方ニ仲買人カ世人ヨリ委託ヲ受クルニ方リ信用アル者ニ對シテハ證據金ヲ減免スル場合モアリ、又信用薄キ委託者ニ對シテハ取引所證據金ヨリモ遙カニ大ナル額ヲ提供セシムル場合モアル。既ニ近來仲買人ハ取引所ニ差出ス證據金ヨリモ一層大ナル額ヲ委託者ヨリ徵收シテ自己ノ地位ノ不安ヲ防グノ方法カ汎ク行ハレントシツツアル。故ニ轉賣買戻ヲ上述ノ如ク制限スルモ、尙ホ仲買人カ委託者ヨリ預カリシ證據金ノ一部ヲ自己ノ投機取引ニ利用スルコトヲ防クヲ得ナイガ併シ之ヲ制限スレハ從來ノ如ク仲買人カ盛ンニ委託證據金ヲ自己取引ニ利用スルヲ得サルコトトナル。最モ我國ノ仲買人ハ委託者ノ證據金ヲ運用スル代リニ委託口錢ヲ低クシテ之ニ報ヒテ居ルト云フ說モアルガ、予輩ノ豫テ主張スル如ク仲買人ナルモノハ委託賣買ヲ誠實ニ取扱フテ口錢ヲ

得ルコトヲ其營業ノ本體トスヘク、自己ノ計算ニ於ケル賣買ヲ行フハ委託賣買ノ執行ニ必要ナル範圍ニ限ルト云フ健實ノ態度ヲ採ルヘキ者デアツテ、自カラ投機者トナルヘキ者テナイ。仲買人カ委託者ニ對シテ不誠實トナルノモ畢竟自己ノ投機取引ニ重キヲ置クカ爲メ、委託者ト勝敗ヲ爭フ場合ヲ生スルカラテアル。然ルニ我國ノ仲買人ハ自己賣買ノ權限ヲ濫用シ、委託口錢ノ收入ヨリモ寧ロ自己賣買ニ由ル投機の利益ヲ得ルコトヲ以テ營業ノ目的トスルカ如キ本末ヲ顛倒スル者カ頗フル多ク、且ツ仲買人カ此ノ如ク本末ヲ顛倒シテ投機取引ヲ行フニ方ツテモ、委託者ヨリ預カリシ證據金ヲ以テ重要ノ資金ト爲スカ如キ薄資劣等ノ仲買人ノ少ナカラサルコトハ爭ハレナイ。故ニ仲買人ノ本末顛倒ノ弊ヲ矯正スルノ一方法トシテ轉賣買戻ヲ制限シ、以テ委託證據金ヲ自己ノ投機資金トスルコトヲ防クノハ多少ノ效果ナシト云フヲ得ナイ。

轉賣買戻ノ制限ハ此ノ如ク幾分カ委託者ヲ保護スルノ效果アリトハ云ヘ、實力アル仲買人カ自己ノ資本ニ由リ投機ヲ行フテ委託者ト勝敗ヲ爭フノ地位ニ立テ、之カ爲メ自然ニ委託者ニ不誠實トナルノ弊ヲ防クヲ得ナイ。加之取引所ノ市場ニ於テハ仲買人カ取引ノ主體トナツテ全責任ヲ負フコトヲ必要トシ、從ツテ其個々ノ賣買カ果シテ仲買人自身ノ計算ニ由ルモノナリヤ、委託賣買ナリヤ、又委託賣買カ同一委託者ニ屬スルヤ、委託者ヲ異ニスルヤヲ一々明カニスルヲ得ナイ。故ニ又仲買人カ轉賣買戻ヲ行フテ證據金ヲ取戻ス場合ニ、果シテ其轉賣買戻カ同一計算主體ニ屬ス

ル賣ト買トニ付テ正當ニ行ハレタリヤ否ヤヲ明ニスルヲ得ナイ。特ニ仲買人カ其賣買ノ一部ヲ兩建トシテ常ニ市場ニ殘シ置キ、他ノ部分ヲ轉賣買戻トシテ處分スルノ方法ヲ探ルトキハ、其處置ノ正當ナリヤ否ヤヲ明カニスルコトハ至難ノ業テアリ、結局轉賣買戻制限ノ制度ハ勵行シ難キモノトナラサルヲ得ナイ。或ハ制限規定實施ノ初メニハ一時當業者モ其態度ヲ愼ムカモ知レヌガ、彼等ノ素質カ內面的ニ改マラサル限り到底此制限カ永ク嚴守セラルル見込ハナイ。此ノ如キ勵行ノ困難ナル制度ヲ設クルコトハ、當業者全體ヲシテ免レテ耻チサルノ徒タラシメ、多々益其風紀ノ墮落ヲ生スル原因トナル。舊取引所税法ニモ同様ノ缺點アリシ爲メ如何ニ取引界ノ風紀ヲ腐敗セシメタルカハ吾人ノ記憶ニ新ナル所テアル。取引ニ關シテ勵行ノ困難ナル規則ヲ作ルトキハ、偶マ違反ノ發覺シタ場合ニ違反者ハ之ヲ不運ト諦メテ耻ツルコトナク、又他ノ同業者モ不運ナル違反者ニ同情スルト云フ有様トナツテ、多々益當業者ヲ卑劣隱險ナラシムル結果トナル。固ヨリ仲買人ニシテ此ノ如ク益墮落スルトキハ、資産信用アル者カ益之ト遠カルノミナラス、多クノ委託者ハ其委託賣買カ利益ヲ生シタ場合ニハ仲買人ノ違反ヲ看過シ、否ナ之ヲ獎勵シテ負擔ノ輕減又ハ利益ノ増加ヲ圖ラントスルニ反シ、其取引ガ損失ヲ生シタ場合ニハ仲買人ニ不正行爲アルト否トヲ問ハス聲ヲ大ニシテ仲買人ヲ脅カスコトニ由リ義務ノ履行ヲ免レントシ、之カ爲メニ委託者ノ風紀ヲモ墮落セシムルコトトナル。或ハ今日ノ政府ト輿論トカ當業者ニ對シテ強ク壓迫ヲ加フル

トキハ、當業者ハ轉賣買戻ノ制限ニ關スル自發的ノ規則ヲ作ルカモ知レヌガ、既ニ此ノ如キ制限ハ法律ニ由テ定ムルモ其勵行カ甚タ困難テアルトスレハ、當業者ノ自發的規則ノ無効ナルハ言ヲ待タス。吾人ハ此ノ如キ姑息ノ小策ノ爲メニ惑ハサルルコトナク、此際更ニ根本的ノ改善策ヲ講セ予ハナラス。

仲買人ノ自己賣買ノ權限ヲ奪フテ委託賣買ノミヲ行ハシムルコトトシタナラハ、仲買人カ投機者トナツテ委託者ニ不誠實トナリ、特ニ委託者ノ證據金ヲ以テ逆ニ之ヲ害スルノ投機ヲ行フカ如キ弊ヲ防キ得ルヤウテアルガ、此ノ如ク仲買人ノ權限ヲ狹メルコトハ、既ニ述ヘシ如ク委託賣買ノ執行上不利不便ヲ生シ、外國ノ公撰仲買人ノ制度ニ於テモ其權限ノ擴張ヲ必要トスルニ至ツタ例モアル。加之取引所ノ市場ニ於テハ仲買人カ取引ノ主體トナツテ責任ヲ負フコトカ必要テアル上ハ、其取引カ果シテ盡ク他人ノ委託ニ由ルモノナリヤ、又ハ自己ノ計算ニ由ルモノナキヤヲ明カニスルヲ得ナイ爲メニ、此制度ハ勵行シ難キモノトナルコトハ、取引界ノ風紀ノ一層嚴正ナル諸外國ノ例ヲ見テモ明カテアルカ、此ノ如キ勵行シ難キ規則ヲ作ルコトハ多々益取引界ノ風紀ヲ腐敗セシムル原因トナル。又轉賣買戻ヲ制限スル代リニ之ヲ全廢シ、一切ノ賣買ヲ兩建トセシムルトキハ、假令ハ仲買人カ自カラ投機ヲ行フテ委託者ニ不誠實トナルコトヲ防キ得ナイトシテモ、少クトモ委託者ノ證據金ヲ濫用スルコトヲ防クニハ有效ナヤウテアル。併シ乍ラ此方法ハ委託者

自身カ轉賣買戻ヲ行フコトヲモ不能ナラシメ、角ヲ矯メントシテ半ヲ殺スガ如キ結果トナルノミナラス、現行ノ株式會社組織ノ取引所制度ニシテ一般ニ解セラルルカ如ク、強制的ニ取引ノ履行ヲ擔保スルコトニ由リ市場ヲ安固ナラシムルコトヲ任務トスルモノテアルトスレハ、轉賣買戻ノ方法ハ此制度ノ當然ノ產物テアル。一ノ仲買人カ債權者タルト同時ニ債務者タル範圍ニ於テハ取引所カ擔保ヲ爲スノ必要ナク、從ツテ其取引ニ付テ保險料ヲ取立テ又ハ證據金ヲ徵收スルノ理由モナイ。取引所ノ任務ヲ以テ強制擔保ニ在リトスルノ見地ヲ探ルトキハ、一般ニ賣買兩建ト云フコト自身モ殆ント無意義テアリ、從ツテ取引所カ事務ノ整理上兩建ヲ存スルコトニ反對スルハ理由ナシト云フヲ得ナイ。又予輩ノ見ル如ク現行取引所制度カ取引ヲ擔保シテ事後ニ備フルト同時ニ、證據金ノ強制徵收ニ由テ事前ニ無謀ノ投機ノ起ルコトヲ豫防スルヲ目的トシ、事後ヨリモ寧ロ事前ノ作用ニ重キヲ置クヘキモノテアルト解シテモ、既往ノ取引ニ對シテ兩建ヲ強制スルノ必要ハナイ。固ヨリ兩建ヲ強制シテ證據金ヲ取引所ノ手ニ保管スレハ、其レ丈ケ仲買人ノ資力カ減少シ、從ツテ自己ノ投機ヲ行フコトノ困難トナルハ明カタアルガ、此論法ヲ進メテ行ケハ仲買人ノ資力ノ薄弱ナルホド委託者ノ利益ナリト云フ奇怪ノ結論ニ達セサルヲ得ナイ。又兩建ヲ強制スルモ既ニ仲買人ノ所有ニ屬スル證據金カ取引所ニ由リ確實ニ保管セラレテアル上ハ、仲買人ハ之ニ基テ他ヨリ相當ノ融通ヲ受ケ、以テ間接ニ委託者ノ證據金ヲ利用スルコトヲ防クヲ得ナイ。

一部ノ論者ハ今日ノ弊害ヲ防ク爲メニハ取引所制度ヲ根本ヨリ變更シテ之ヲ會員組織トスルノ外ナシト主張スルガ、併シ取引所ノ取引ハ信用取引ノ一種トハ云ヘ、普通ノ信用取引ニ於テ當事者ノ一方カ相手方ヲ厚ク信用シテ先ツ之ニ物件貨幣ヲ給付シ、其對價ヲ後日ニ期スルト云フカ如キモノテナク、當事者双方ノ給付カ後日同時ニ行ハルルモノテアワテ、期限ニ至リ其一方カ違約スレハ相手方モ履行スルノ必要カナイカラ、相互ニ信用ヲ重ンスルノ程度カ割合ニ低ク、從ツテ會員組織トスルモ之ニ由テ必然ニ取引者ノ種類ノ向上スルコトヲ保證シ得ナイノテアルガ、特ニ今日ノ我國ニ於テ會員組織ヲ探レハ仲買人ノ資産及品性ノ向上ヲ來タスコトヲ保證シ得ルヤハ甚タ疑ハシク、寧ロ之ヲ墮落セシムルノ危險カ一層大テアル。西洋ニ於テモ商業界ノ風紀ノ嚴肅ナラサル國ニ於テハ會員組織ノ取引所ノ腐敗セシモノ多ク、此ノ如キ取引所ニ於テハ我國ト同シク仲買人カ委託者ト勝敗ヲ爭フテ之ニ不利ヲ與フルノ例ハ決シテ少ナクナイ。又今日我國ニ於テ實質上定期取引ト多ク異ナラサル市中先物取引ナルモノヲ見ルニ甚シク無規律無節制ノ授機取引テアツテ取引市場ニ對シ有害ノ影響ヲ與ヘツツアルガ、而モ驚クヘキハ之ニ參加セル者ノ少ナカラサル部分ハ有力ナル卸賣業者テアルコトテアル。亦以テ我國一般商業界ノ風紀ノ甚タ不健實ナルコトヲ察シ得ヘキテアル。會員組織ノ下ニ於テモ仲買人カ安全ニ其業務ヲ營マントスレハ、現在ト同様ニ委託者ヨリ充分ノ證據金ヲ提供セシムルコトヲ必要トスルノテアルガ、而モ此制度ニ於テハ仲

買人ヨリ取引所ニ證據金ヲ提供セサルカ故ニ、仲買人カ委託者ノ證據金ヲ濫用スルノ危險ハ一層甚シクナルト見ルコトモ出來ル。只タ予輩ノ恐ルル所ハ會員組織ヲ行ヘハ仲買人カ此ノ如ク委託者ヨリ證據金ヲ徴シテ之ヲ自己ノ目的ニ利用スルコトテハナク、寧ロ仲買人カ自カラ無節制ノ投機ヲ行フト同時ニ證據金ヲ提供スルノ資力ナキ劣等ノ委託者ヲモ相手トシテ營業ヲ行ヒ、以テ取引界ヲ益廢敗セシムルコトテアル。

三 根 本 策

是ニ由テ見レハ仲買人ノ權限ヲ狹メ又ハ轉賣買戻ヲ制限スルコトハ、今日ノ弊害ニ對スル策トシテハ枝葉ノモノテアツテ、之カ實行ハ一面ニ種々ノ不利不便ヲ生スルノミナラス、之ヲ厲行スルコト自身カ困難テアツテ却ツテ取引界ノ風紀ノ廢頽ヲ甚シカラシメル。蓋シ今日ノ弊害ノ根源ハ第一ニ健實ナル實業家資本家ノ取引所利用ノ未タ盛ナラサルニ係ハラス仲買人ノ數ヲ過多ナラシメ、其結果一般仲買人ハ其營業ヲ維持スル爲メ委託者ノ良否ヲ選擇スルノ遑ナク、劣等者ヲモ相手トシテ營業セサルヲ得サルヨリ自カラ其營業カ腐敗シ、特ニ薄弱劣等ノ委託者ハ其委託賣買ノ相場カ不利ニ陥ツタ爲メニ仲買人ヨリ追證據金ヲ要求セラレタ場合ニ之ニ應スルノ誠意ト資力トヲ缺ク者カ多ク、之カ爲メ形勢不利トナリシ委託賣買ニ付テハ、多クノ場合ニ仲買人カ全責任ヲ

負擔セサルヲ得サルニ至ルヨリ、仲買人モ自衛ノ必要上此種ノ委託賣買ヲ轉賣買戻ニ由リ整理シ置カサルヲ得サルニ至ルノテアルガ、第二ニ此ノ如ク過多ナル仲買人ノ過半ハ委託者ヨリ預カリシ證據金ヲ以テ自己ノ資本ノ重要部分ト爲サントスルカ如キ薄資者テアルコトテアル。故ニ仲買人ノ淘汰ヲ行フテ資力ノ充分ナル者ノミヲ殘存セシムルコトヲ必要トスル。今日ノ如ク多數ノ薄資仲買人ヲ殘シ置ク上ハ、外部ヨリ如何ナル監督ノ工夫ヲ施スモ結局無效トナルト同時ニ、此等ノ劣等仲買人カ不當ノ手段ニ訴ヘテ其營業ノ發展ヲ圖ルトキハ、優良ノ仲買人モ競争上之ニ倣フノ已ムヲ得サルニ至ルノテアル。勿論資力アル仲買人ノ中ニモ品性ノ劣等ニシテ仲買人タルニ不適當ノ者モアリ、特ニ不健全ナル投機ニ熱中スル者モアルテアラウガ、併シ大體ヨリ見テ薄資ノ仲買人ハ世ノ信用モ薄キ故、劣等ノ委託者ヲ相手トシテ營業セサルヲ得サルヨリ、自衛ノ必要上其營業カ墮落スルノミナラス、守ルヘキノ資産ナキ仲買人ハ冒險的ノ投機ニ由テ資産ヲ作ルコトニ熱中シ、之カ爲メ委託者ニ對シテ不誠實トナルニ反シ、資力ノ充分ナル仲買人ハ世ノ信用厚キ故其委託者ノ品位モ高ク、從ツテ之ヲ相手トシテ營業スルニハ陋劣ノ手段ノ必要ヲ見サルノミナラス、資力大ナル者ハ自カラ自重心モ強ク、自己ノ計算ニ於ケル賣買ヲ行フ場合ニモ健實ナル鞘取リヲ主トスルノテアルガ、取引所市場ニ於テ健實ナル鞘取リノ行ハルコトハ取引ヲ圓滑ナラシムルニ必要テアル。然ラハ此ノ如ク仲買人ノ大淘汰ヲ行フニ如何ナル方法ヲ探ルヘキヤト云フニ

予輩ノ豫テヨリ主張スル如ク仲買人ノ身元保證金ヲ大ニ増加スルノ方法カ最モ有效デアリ、此ノ加キ増額ニ應シ得サル薄資者ハ全然之ヲ取引所外ニ驅逐スルカ又ハ自己賣買ヲ爲シ得ルモ世間ヨリ委託ヲ受クルコトヲ禁止シ、之ヲシテ純粹ノ市場鞫取りニ變セシムルコトヲ適當トスル（京都法學會雜誌第七卷第三號取引所仲買人及客ノ制限參照）

今日取引所ハ仲買人ヨリ相當ノ身元保證金ヲ徵收セル上ニ、個々ノ賣買ニ付テ證據金ヲ提供セシメテ安全ノ地位ニ立ツ故、此上更ニ身元保證金ヲ増加シテ取引所ヲ保護スルノ必要ハナイ。之ニ反シ委託者ハ仲買人ニ對シテ證據金ヲ提供スルモ仲買人ヨリハ別段ノ保證ヲ得テ居ナイ。假令ハ兩建ノ強制ニ由リ委託者ヨリ提供セシ證據金ノ大部分ヲ取引所ニ保管セシムルコトトスルモ、之ニ對シテハ取引所カ優先權ヲ行フ故、仲買人ノ取引上ノ失敗ニ對シテ委託者ノ地位ヲ別段ニ安固ナラシムルヲ得ナイ。故ニ此際仲買人ノ保證金ヲ増額スルニ付ナハ、之ニ對シ取引所ニ優先權ヲ與ヘスシテ委託者ニ之ヲ與フルコトヲ適當トスル。即チ從來ノ身元保證金ノ増額ヨリモ特別ノ委託保證金ヲ創設スルヲ適當トスル。此方法ニ由レハ仲買人ヲ淘汰スルト同時ニ、仲買人ト委託者トノ關係ヲモ公平ナラシムルコトトナル。最モ此方法ニ由リ仲買人ノ大淘汰ヲ行フトキハ、一時取引高カ減少シテ取引所ノ手数料收入ノ減少ヲ來タスヲ免レナイ。只タ取引高ノ減少ハ一時ニ止マリ、久シカラスシテ其高ハ大ニ増加スルニ至ルコトハ疑ヲ容レナイ。何トナレハ今日マテ取

引所ヲ利用スル者ハ多ク劣等投機者アツテ、銀行業保險業其他一般ノ有力ナル實業家資本家ハ未タ文明ノ利器トシテ大ニ之ヲ利用シテ居ナイノテアルガ、其原因ハ我國ノ經濟カ幼稚ナ爲メニ汎ク之ヲ利用スルノ必要カナイカラハナク、仲買人カ不信用ナルト取引稅取引手数料等ノ取引上ノ負擔カ大ナルト爲メテアル。故ニ仲買人ノ大淘汰ヲ行フテ其信用ヲ高ムルト同時ニ、取引上ノ負擔ヲ輕減スルトキハ、取引所利用者ノ種類ニ大變化ヲ來タシテ眞ニ之ヲ文明ノ利器タラシムルニ至ルカラテアル。取引界カ此ノ如ク改善セラレタナラハ、次第ニ之ヲ會員組織ニ變スルコトモ敢テ困難テナイ。

取引所改善ノ爲メニハ仲買人大淘汰ノ外ニ有效ノ方法ハナイノテアルガ、今日ノ如ク薄資ノ仲買人カ増加シタノハ其罪政府ニ在リト云ハ子ハナラス。取引所ハ仲買人ヨリ身元保證金ヲ徴セル上ニ個々ノ取引ニ付テ證據金ヲ徴シ、其他ニ立會停止及解合ノ勸誘ノ如キ手段モアツテ安全ノ地位ニ立ツテ居ル。現ニ仲買人ノ失敗ノ爲メニ取引所カ擔保責任ヲ履行シタ例ハ多年ノ間ニ僅々一二ノ場合アルニ過キササルヲ見テモ此事ハ明カテアル。此ノ如ク安全ノ地位ニ立ツ取引所ハ其手数料收入ノ増加ヲ圖ルカ爲メニ、仲買人ノ數カ増加シテ市場取引高ノ増加ヲ來タスコトヲ喜フハ怪シムニ足ラス。故ニ仲買人ノ數ニ關シテハ政府ノ監督ノ極メテ嚴重ナルコトヲ必要トスル。然ルニ舊テ政府カ過ツテ薄資ナル直仲買人ナル者ヲ設ケテ直取引ヲ強テ發展セシメントシ、其失敗ノ跡

始末ノ爲メ久シカラスシテ此直仲買ヲ盡ク普通仲買ニ轉セシメタコトカ、取引所改善ノ上ニ一頓挫ヲ來シタノテアル。而シテ仲買人大陶汰ニ由ル取引所ノ改善ヲ更ニ困難ナラシメタルハ、政府カ妄リニ取引所ノ營利的ナル増資ヲ認メタコトアル。仲買人ノ大陶汰ハ一時取引高ノ減少ニ伴フテ取引所ノ收入ヲ減少セサルヲ得ナイガ、取引所ハ既ニ過大ノ資本ヲ擁セル上ニ、昨年更ニ政府カ不必要ナル増資ヲ認メタ爲メ、今日重ナル取引所ハ假令ヘ一時タリトモ其收入ノ減少ヲ來タス所ノ仲買人大陶汰ニハ大ニ反對スル。又取引所改善ノ爲メニハ仲買人ノ大陶汰ト同時ニ取引ノ負擔ヲ輕減シ、以テ着實ヲ旨トスル所ノ有力ナル一般實業家資本家カ、薄利ニ甘ンシテ健實ノ取引ヲ行フ爲メニ取引所ヲ利用スルコトヲ可能ナラシメネハナラヌノテアルガ、取引所ニシテ過大ノ資本ヲ擁シ、之ニ對シテ相當ノ配當ヲ行ハントスレハ取引手数料ヲ高率トスルコトヲ必要トシ、到底取引所ノ改善ニ必要トスル所ノ取引負擔ノ輕減ヲ實行スルヲ得ナイ。此ノ如ク從來政府ノ取引所政策ハ常ニ根本ニ於テ失敗シ、徒ラニ枝葉ノ小策ニ苦心スルノ愚ヲ繰返シツツアルノテアルガ、今日ハ輿論カ物價調節問題ニ伴フテ取引所ノ改善ヲ促カシツツアルカラ、政府ハ此機會ニ於テ仲買人大陶汰ノ根本策ヲ講シ以テ多年ノ失敗ヲ償ハチハナラヌ。

或ハ曰ク、取引所改善カ結局惡仲買大陶汰ニ由ルノ外ナキハ明ツテアル。併シ小口落禁止ヲ勵行スルトキハ、委託者ノ證據金ノ運用ニ由テ營業ヲ維持スルカ如キ薄資仲買ハ事實上營業ノ繼續カ

困難トナツテ市場ヨリ驅逐セラレル。今日表面ヨリ仲買淘汰ヲ行ハントスレハ種々ノ障礙カ起ツテ實行カ困難トナルニ反シ、小口落禁止ハ取引界ノ事情ニ通セサル輿論ノ一般ニ賛成スル所テアルカラ、此際政府ハ此ノ如キ輿論ノ後援ニ由リ間接射撃のニ仲買淘汰ヲ行フコトカ便宜テアルト正々堂々ノ陣ヲ張ツテ公衆ノ無智及當業者ノ不正ト戰フノ態度ト、論者ノ云フ間接射撃の態度ト何レカ政治家の又ハ立憲的ナリヤハ暫ク問題外ニ置キ、論者ノ主張スル所ハ小口落禁止カ眞ニ勵行シ得ルモノト假定シテノ論テアルガ、既ニ述ヘシ如ク此禁止ハ決シテ有效ノ間接射撃トナルカ如ク勵行シ得ルモノテナク、單ニ一時取引界ヲ威嚇シ又無智ナル世人ノ氣休メトナルニ過キナイ。仲買營業ヲ所謂監視付キ營業トシテ絶ヘス警察の干涉ヲ行フコトハ、或ハ官僚ノ仕事ニ興味ヲ與ヘ其威勢ヲ示スニハ好都合トナルカモ知レヌガ、實際ニ禁止ノ目的ハ到底達セラレスシテ、徒ラニ取引界ヲ劣惡陰險ナラシムルノミナラス、近來ノ風潮ヨリ見レハ官吏カ實業家ニ對シテ生殺與奪ノ權ヲ振ヒ得ルトキハ、忽チニ官紀ノ腐敗紊亂ヲ來タスノ危險カ甚タ大テアル。總テ制度ヲ立ツルニハ其根本ヲ正フシ、一旦之ヲ立ツレハ自働作用ニ由リ其運用カ圓滑ニ行ハレテ、國家機關ハ拱手傍觀シ得ルカ如キ狀態ニ至ルコトヲ理想トスル。予輩ハ必シモマンチエスター學派ノ自由放任說ヲ信條トスル者テハナイガ、政治ノ要訣ハ無爲ニシテ化スルニ在リト云フコトニハ大ナル真理カ含マレテアル。劣惡ナル多數ノ仲買人ハ正面カラ淘汰ノ大鉈ヲ振ハルルヨリモ寧ロ小口落禁止ト云ヘル名目的制度ヲ立テ、其下ニ惡辣ナル處世術ヲ講スルコトヲ利益トスルハ無論テアル。